第３回科学委員会開催

開催日：8 月 26 日（月）
形　式：リモート形式で開催
出席者：安成、鹿野、中静、松田、山本、溝口、渡辺、ケシャブ、津田、古川
事務局：梶、村上

最初に梶理事長から、東京で開催された第８回全国大会について、また懸案だった法人の公益化が実現したこと、6 月に改選された評議員会・理事会の新体制等につき、報告がありました。

1. 2025 年度の全国大会開催地である福井県での、協議会の主催によるイベントについての意見交換が行われました。この企画はこれまでの 8 月 10･11 日の「山の日」全国大会イベントとは別に、協議会が内容的には補完するようなテーマで、主体的にイベントを実施しようというものです。
　安成委員長が顧問を務める地球環境研のスタッフが、かねてから大野市で水を巡る研究のフィールドとしています。来年の「山の日」全国大会では大野市が主会場として予定されていることもあり、今後 10 月ごろまでに協議会が地球環境研の協力のもと、福井県、大野市等と協議し、2025 年 5 月ごろをめどに計画することとなりました。

2. 協議会の活動や情報発信の国際化について、渡辺委員、津田委員から、2002 年の国連国際山岳年以降の「国際山の日」の制定や、国際山岳年以降この活動を主管してきた国連食糧農業機構（FAO）による組織、活動状況についての情報提供があり、これにもとづいて意見交換が行われました。
日本では「国際山の日」についての認知度は低く、また FAO との連携の取り組みもあまり行われてきませんでした。公益法人化が認められたことも契機に，協議会として FAO の Mountain　Partnership に参加し、日本での「山の日」の活動についての英語での情報発信を行うことなどについて、積極的に取り組むことが確認されました。またこの方針のもと、特に若い世代への啓発活動の重要性についての指摘がありました。

3. 最期に自由な意見交換が行われ、各委員からそれぞれの専門的な知見から、とりわけ日本では山の問題を考えるうえで海との連関も視野に入れることの重要性、山地に住む、また近い過去に住んでいた人々の、山に関する意識や思いを

どのようにとらえるかが重要な課題であること、など幅広い問題提起がありました。

次回の科学委員会は、福井でのイベントについての進展具合も見定めて、今年内に行われる予定です。